

# コロナ危機において大学が やるべきこととできること

大阪市立大学 副学長

橋本文彦

# 話の流れ

- 大阪市立大学の紹介
- コロナ危機における大阪市立大学の取り組み
- 現状と問題・展望

# 大阪市立大学の紹介 1

- 8学部 10 研究科
- 学士課程学生は 1 学年あたり約1500名（学生総数約8千名）
- 大学全体で留学生は約350名（長期）
- 専任教員数は約730名、非常勤教員約1100名
- 職員総数1600名（うち約1200名は附属病院勤務）
- 今年（2020年）に創立 1 4 0 周年を迎えた
  - ※実は「**ここ**」が今回の話のポイントでもあります

⇒大阪府立大学と統合して2022年4月に新大学開学予定  
本年10月に新大学設置審申請予定

## 大阪市立大学の紹介 2

- 公立大学なので、学生数等の算定基準に基づいて、いったん地方交付税交付金全体として大阪市に届き、そこから運営費交付金として大学に交付される。（文科省から直接ではない）
  - 2010年頃までに運営費交付金が大幅にカット、教員数も20%以上削減されたが、そのあとは小康状態。
  - 授業料免除枠も縮小傾向にあった
- ⇒今年度から国の制度の他に、大阪府独自の免除制度創設  
全体に免除者増加、特に1年生は全体の約20%が免除対象  
(一部免除含む)

## 本学の取組 1-1 遠隔授業チーム

- 国内の感染状況や見通しが変化することから、公式な全学会議とは別に、自然発生的に教職員幹部がオンライン上で検討チームを発足した。

⇒（時間制限なしで、各自の空き時間で書き込み）

3月中旬：原則対面授業（教室定員の50%程度で実施）

授業開始は2週間繰り延べて4月20日～、と決定

⇒ところが・・・

3月下旬：原則を遠隔授業・授業開始もGW明けに変更

3月30日：学則改正

## 本学の取組 1-2 遠隔授業チーム

4月上旬：専任教員・非常勤教員への対応

事務体制への対応

学生への遠隔環境アンケート

障がいのある学生対応のための検討

4月中旬：他大学のシステムダウン状況を確認

⇒非常に困難な状況であることをチームで共有

「授業開始時にシステムがダウンしなければ奇跡」

⇒「奇跡はおそらく起こらない」

## 本学の取組 1 - 3 遠隔授業チーム

4月中旬：教員（専任・非常勤）への説明会

学生貸出用PC・ルーターの（購入）準備

※100セット新規購入＋学内のノートPC60台を確保

PC購入者への支援（ローン利子分補助）決定

数種の遠隔授業サンプル（教員・学生対象）製作開始

⇒4月30日サンプル遠隔授業公開

## 本学の取組 1-4 遠隔授業チーム

4月初旬：サーバーのハードウェア増強

4月末：サーバーダウン時に備えたPlanB準備開始

⇒ 5月8日PlanB運用開始、7月1日PlanB運用終了

5月14日：遠隔授業開始（ダウンせず）

学生のLMSアクセス状況確認（個人単位まで）

5月21日：教員・学生からの運用時情報収集

6月1日：部活君・研活君 運用開始



## 本学の取組 2 学生への経済支援

- 経済的に困窮している学生に、一人5万円を給付する。
- **財源は寄付金**。一度に全額ではなく、複数回を想定。

5月8日（金）：学長が緊急支援給付金を提案

⇒ 予算確保見通し。制度設計。

5月11日（月）：申請受付サイトオープン

5月12日（火）：14日（木）までに600名以上から申請  
（留学生約100名を含む）

5月15日（金）：初回振込

## 本学の取組 3 学生へのソフト支援

- 「授業についていけない」「課題が多すぎる」「ずっと家にいて不安」など、学生のソフト面を支援する必要がある。

（下記は全学規模のみ。学部・学科毎などは別途実施）

5月初旬：学生ソフト（授業理解やメンタル）支援開始

6月22日～：ラーニングセンター オンラインカフェ

6月24日～：学生（個人）メンタルヘルス調査

9月7日～：「学長と話そう」（一年生向け・全9回）

## 本学の取組 5 陽性者接触解明への支援

- 学内で陽性者が判明した場合、当該教室の消毒や接触者への検査を容易にするために、着席位置のQRコードをスマホで読み取って記録（本学では「出席管理システム」が存在しない）
- 8月下旬：後期授業での対面方式（一部）導入決定  
⇒ **工学部教員と院生・学生でアプリ製作**開始
- 9月下旬：アプリ使い方を全学会議で説明
- 10月1日まで：学内座席（1万席以上）にQRシール貼付

## 本学の取組 6-1 PCR検査

- 「（無症状の）感染者がいるかも」と心配で大学に行きたくない人（学生・教職員）のため、全教職員（非常勤含む）・学生を対象としてPCR検査を実施（**財源は寄付金**）

9月初旬：学長が意向を表明（事前に医学部で検討）

⇒具体的な方法の決定・倫理委員会の設置と承認

9月下旬：コロナ対策本部会議で承認

9月下旬：教育研究審議会で承認

10月上旬：検査日時の意向確認と調整

## 本学の取組 6 - 2 PCR検査

1 0月第三週の一週間で実施予定

⇒検査後3日以内に結果判明

- ・陽性の場合、大阪府の方針に従うが、遠隔授業の提供など不利益が生じないように検討

# 現状と問題・展望 1

- 大阪府市が「国の制度の先を行く」として授業料無償化を始めた
- 大阪市への「ふるさと納税」で「大阪府立大学を応援」という項目がある
- たまたま、創立140周年記念事業のために同窓会を交えて寄付金を募るための体制を進めてきていた
  - ⇒ 記念事業を縮小して、学生支援に回すことができた
- たまたま、新大学で「PC必携」を決定し、購入が困難な学生のために貸出用PCを検討しており、前倒し購入できた

## 現状と問題・展望 2

- 今回は「たまたま」が重なったが、恒常的に公金で支援できる制度、また非常時にすぐに動ける体制や制度が必要
- 通常の会議は「月一回2時間」などだが、オンラインで常時議論状態となり、むしろ動きが非常に早かった
  - ⇒とはいえ、適切なデュープロセスを確保する必要がある
- 遠隔の良い点、向いていない点、混合時の問題など、今後に活かす記録が必要